

---

# とある学園の生徒共

ダーツ野郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある学園の生徒共

### 【Nコード】

N4185R

### 【作者名】

ダーツ野郎

### 【あらすじ】

俺の名前は赤坂雄次<sup>あかさかゆうじ</sup>、学園都市のとある学校に通っているただの学生だ。この学校はもともとは普通の学校だったのが近年謎の進化を遂げて生まれ変わった変な学校らしい……。まあ、ここの学生共（俺も学生だけどな……）の世にも愉快な物語を適当にでも堪能してくれ。という感じですが、よろしく願います。

**赤坂雄次《あかさかゆうじ》その1（前書き）**

”残酷な描写あり”とありますが、実際にはほとんどありません。  
不定期的に続くとおもいます。



「な、なんとか間に合ったあ。遅刻すると木原の奴がここの馬鹿で  
けえグラウンドを20〜50周させやがるからな。」

校門の方から……ふ、不幸だああああああ！！！！！！と声  
がする

い、今のは聞かなかったことにしよう……

ガラッ

「お、おはよお」

「よおっ」、「こんちゃあ〜」、「元気い〜」と返事が来る

「おい、赤坂ア〜、三下しらねエか？」

「さあ」あれは、聞かなかったことにしたい

「ち、あいつに金返してもらわねエといけねエのによオ、まったく」  
今、俺に話しかけてきたのは一方通行いちよう生徒会長をやっている。  
俺もこいつのせいで生徒会で書記をやらされている

三下とは上条当麻かみじょうとうま、どんな女にもフラグを建てまくるため一級建築  
士カーと皮肉で呼ばれている。

「カミやんは全世界のもてない男の敵だ！！だいたいいつも——」

「と土御門元春が、つちみかじもと「ニャー」や「ゼイ」を忘れて熱弁するほど  
だった……（別にあいつのことが嫌いなわけでわないのだが。）」

ガラッ

「早く席に座りやがらないとスケスケみるみるですよー」

こもえ小萌先生がいらっしゃった、上条は遅刻決定だな、残念

**赤坂雄次《あかさかゆうじ》その1（後書き）**

オリキャラ募集中です。

何か変なところがありましたらおつたえください。

全部変だと思えますけども……。

**赤坂雄次《あかさかゆうじ》その2（前書き）**

残念な奴が増えていく……。

## 赤坂雄次《あかさかゆうじ》その2

今朝も言った通り、4Bは残念な奴らで構成されている。

それも全員と言っているいいほどだ。（誰も俺のことを残念な奴じゃないと認めてくれなかった……。）

性格が普通の奴はいることはいるんだ。ただ、通販好きの健康オタクで、怪しい健康グッズや健康食品

などを多く持っているような奴だがな……。

まあ、中には”ざんねんすぎるよにん四天王”、”デルタフォースクラスの三バカ”などといった謎の組織？ まであるのだが……。

まあ、そんなことはどうでもいい。一限目のうしやう後藤先生の授業中は結構みんな騒いでいる。

あの先生はあまり授業で怒らないからだ（あの人自身も授業中に騒いでいるからなんだが……。）

そんな感じで後藤先生の授業は進んでいく……。

ところがそこである事件起こった！！



昔からロ●コンという説があった一方通行が三日前、すすだらけの服を着て、しかも顔を赤くした幼女と一緒にセブンスミストにいたのを青ピが見つけたらしい!!!!（ついに奴も犯罪者か……）

そこで土御門元春や垣根帝督や削板軍覇つちみかぢもとはる かきねていとく そぎいたぐんはやらが……

「やっぱ一方はロ●コンだったんだニャー」

「やっぱ第一位様は常識が通用しねえなあ」ニヤニヤ

「誘拐か!? クソの垣根と違って、一方は根性がある」なんで俺がクソなんだよ!!!」自覚しろよ赤坂みたいに!!!」

「俺も認めてねーよ!!! おいっ!!!!!!」

「うるさいニャー!、それよりどういふことか教えてもらうぜイ、一方!!!」

「「「そうだそうだ!!!」」」

そうして4Bの異端審問会が始まった。

**赤坂雄次《あかさかゆうじ》その2（後書き）**

話しの終わり方が残念です。

幼女とはあのゆうめいなアホ毛ちゃん？ですけど、ちょっと設定がちがいます。

赤坂雄次《あかさかゆうじ》その3（前書き）

頭が狂って……。

### 赤坂雄次《あかさかゆうじ》その3

その後、あまりの五月蠅さに後藤先生がぶちぎれて男子生徒は全滅した。

突然、木原先生が現れて一方を殴り続けていた気がしたが、きっと気のせいだろう。

そんなこんなで授業後、異端審問開始である。もちろん4B全員強制参加。（「タ、タイムセールがあるのにー！！不幸だぁー！！」と言っていたやつがいたが、俺は知らん。）

一方が言うには、その少女は四日前にあった火事で家が全焼しなんとか生き延び、講演で倒れているところを一方が保護し、泊めたいらしく、青ピが見たのはその子に服を買ってあげていたところだったらしい。

結局、そんな正直言っどーでもいい異端審問会は一方と上条をぶち殺……

まあ終わったことはいいんだ。とりあえず生徒会室へ直行してつまらん仕事でもしに行くことにしよう。

（i n 生徒会室）

一方通行と垣根帝督と俺と心理定規かきねていとかがいる。  
メジャーハート

「なんか、最近キャパなんちゃらつつウ音響兵器がスキルアウト内で出回ってるらしいからその情報を集める」

「それってもしかして、キャバク r（ボゴツ！！！！）！

「いてえ！！なにすん d 「それ何に使うの？」 ひどっ！！無視すん n 「なんか変な音を出して演算を妨害し、能力を狂わせるらしい。」  
だか r 「ふーん、でもそれって A I M ジャマーの方がいいんじゃないの」 おめーら！！だから無視すん n（ボコッ！！ピヨピヨ「てめエは黙ってっろォ！！」ピヨピヨ「スキルアウトなんか A I M ジャマーを手に入れるのは難しんだぜエ」

「ところで垣根はどうすんだ？」

「心理定規にまかせとけ」

「ということで、路地裏の掃除といきますか……。」

赤坂雄次《あかさかゆうじ》その3（後書き）

ピンセットより……。

『心理定規』

『名前』

『求む』

**御坂美琴《みさかみこと》その1（前書き）**

投稿します。

主人公って何？ 食えるのそれ？

## 御坂美琴《みさかみこと》その1

御坂美琴<sup>みさかみこと</sup>は困っていた。

なぜかという友達と、クレープを食べながら話していたら、いつの間にか知り

合いの先輩（男）が話しに入り込んでいたのだ……それも、違和感も無く。

「それで、脱ぎ女に捕まるとですね——」

「へえー、そこまではしらなかったわ。でも俺は、なんでも食べる謎のシスター

ってのは——

「そんな話だったんですかー、そこまではしなかったです。」

「そんなただの都市伝説信じないでくださいまし、初春<sup>ういはる</sup>も佐天<sup>さてん</sup>さんも

垣根<sup>かきね</sup>先輩も！！ねー、お姉さまー。」



「そ、そうよねー。」

（ていうか垣根先輩が違和感の欠片も無く会話に入ってきたことに  
対しては

つつこみがないの!?)

「そ、そういえば垣根先輩。」

「ん?」

「なんでここにいますか?」

「路地裏の掃除にだよ。」

「はあ。」

「やべ、もう行かねえと、一方のロリコン野郎め!!!。」

「お嬢さん方、またな。」 タツ、タツ、タツ、タツ

「また、話を聞かせてください!!」 「ありがとうございました！」  
「おたっしや

で。」 「じ、じゃあ、 また……。 」

「垣根先輩行ってしまわれましたわね。」

「はあ」

「ところで御坂さん。」

「はい？」

「あの人、誰ですか？」

「はい？」

「いやあゝ、あの人誰かなゝって思いまして……。」

「さ、佐天さん<sup>さてん</sup>、知らない人なのにあんなに意気投合してたの!？」

「ええ、まあ成り行きとかかなんとか……、「垣根先輩を知らないんです

か佐天さん!!」う、うん。」

「あの方は学園都市の誇る超能力者<sup>レベル5</sup>の第二位でありながらあの最強無敵という

名を欲しいがままにして きた、来桜<sup>らいおう</sup>高校生徒会執行部の副会長、

垣根帝督<sup>かきねていとく</sup>さんですよ!」

「え!、そんなに偉いだったんですかあー!?!?!?!?」

あくまでも余談だが、

その後、路地裏から爆発音と何人かの悲鳴が空に響いたらしい。

あくまでも余談だが……。

**御坂美琴《みさかみこと》その1（後書き）**

次は戦ってる様子です。

次があればですが……。

白井と青ピは、無理……。

赤坂雄次《あかさかゆうじ》その4（前書き）

できたけれど……

## 赤坂雄次《あかさかゆうじ》その4

赤坂雄次は多重人格者だ……しかし本人は気付いていない。

「な、なんだこいつはあっ!!??」

逃げまどうスキルアウト達を追いかけてもせず、ただ、指をスツと動かす……するとその軌道の通りに機

械が引きちぎられる……。

「ありえねえよ!! なんでこれ《キャパステイイダウン》が効かねえんだよ!!??」

「……」

赤坂は何も答えずにまた指を動かす……。

「ギアアアアアア!!!!!!」スキルアウトが一人、また一人と倒れていく……。

最後の一人を倒した後、赤坂はただ一言……。

「残念だ……」

そして携帯を取り出し電話をかける……。

「あ、俺だ俺!!……いや、俺々詐欺じゃねえよ!! 俺だ俺、赤坂だよ!! ちゃんと携帯でかけてるじゃねえ

か!!なんで間違えんだよ!?!?!?!?!まあい、敵は片づけた、けどここには情報がねえな……後始末頼む

わ!!!よろしくなあ」

言わなくてもわかると思うがこの残念な男、赤坂は馬鹿だ。敵を倒した後、倒したという事実は覚えて

いるが、その具体的なやりかたは覚えていない……

しかし、どうせ能力を使って倒して、良く忘れる人間なので忘れたのだろうと一人で考え、そのことも

また忘れるような人間なのだ……。

これが、彼、赤坂雄次の残念な点だ……。

そして、そのころ、他の奴らも路地裏の掃除をつづけていた……

赤坂雄次《あかさかゆうじ》その4（後書き）

できそうだったので頑張って無理して縦の文作ってみたけれど

かわいいしまこそ……ってなんだよ

なげやりで短くて不定期的ですいません……



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4185r/>

---

とある学園の生徒共

2011年10月8日15時20分発行